

事情聴取調書

- 1 件名 板橋区立ホテル生協環境館について
- 2 被聴取者 資源環境部環境課(管理係)
阿部 宣男(技能主任・作業Ⅱ)
- 3 聴取者 総務部人事課長 木曾 博
総務部人事課人事係長 宮川 修一
総務部人事課人事係主査 皇田 岳彦
- 4 聴取日時 平成26年2月28日(金) 9時54分～12時25分
- 5 聴取場所 人事課面談室
- 6 聴取内容要旨

【木曾課長】今の阿部主事の状況についてお伺いしたい。病院に通院していると聞いている。

【阿部主事】精神的に辛い状況だ。家内の実家が沖縄であるので、そこでしばらく過ごしてみてもと言われて行った。医者からは「自殺だけはしないように」と言われている状況。
ホテル施設から自宅へ荷物を運び、26年間に渡る事務資料の整理をしている。段ボールで80個ほどあった。ほとんど本である。1冊1冊確認をしている。

【木曾課長】今後、医者にはどのように通院する予定か。

【阿部主事】3月11日(火)に来るよう言われている。

【木曾課長】クリニックであるから病院ではないということでもいいか。

【阿部主事】紹介状はもらっている。家内が成増厚生病院の看護婦長をしている。現在は、成増高等看護学校で教員と看護師をしている。そこだと身内だから変な誤解を受けるのを避けるため、離れたところで受診している。

【木曾課長】沖縄まで通うのは大変なのでは。

【阿部主事】旅費がかかるのが大変。宿泊費は実家に泊まるのでかからないのだが。

【木曾課長】今後も通う予定か。

【阿部主事】そのつもりである。また、アメリカのタフツ大学の精神科の先生からも「来た方がいい」と言われている状況。

【木曾課長】それでも、沖縄に通う予定ということでもいいか。

【阿部主事】そうである。

【木曾課長】薬ももらっているのか。

【阿部主事】そうである。デパスと睡眠薬の2種類をもらっている。

【木曾課長】これからいくつか質問するが、気持ちが悪くなったら言ってほしい。配慮させて頂く。
まず、前回、色々な方の話があった。能登町の町長が区長に会っていると思う。いつ頃、どこで会ったのか。

【阿部主事】私の記憶では、2回来て、1回目は夜間特別公開の事前打合せ会議のとき、区長、部長、課長、町会の方、警察が集まる時があって、その日に合わせて来た。

【木曾課長】事前に区長には話しをしていたか。

【阿部主事】伝えていた。2008年か2009年あたりだと思う。震災前なので。その時、能登町として在来種クオマルハナバチを繁殖させ販売していきたいという話があった。

【木曾課長】区長に対する依頼というのはなんだったのか。

【阿部主事】それに対して協力してくれということだった。

【木曾課長】どうい協力ということか。

【阿部主事】技術的な協力と生態的な協力をしてくれと。蜂がいけないもので。

【木曾課長】その時、立ち会ったのは阿部主事の他に、課長、部長もいたのか。

【阿部主事】吉田町長だったと思う。課長は都の課長だったと思う。その時、能登町から板橋区長宛てに依頼文を出していると思う。また、職員の間年の受入れの依頼も頂いている。

【木曾課長】その打合せについて、能登町長が来て区長が対応するのなら区長室でやるのが普通かと思うが。

【阿部主事】日程が合わなかったからと聞いている。

【木曾課長】能登町は誰が来たか覚えているか。

【阿部主事】町長とふれあい公社の職員が1名来っていると記憶している。

【宮川係長】何月か覚えているか。

【阿部主事】5月だったと思う。夜間公開の1か月前に行うので。高島平4丁目集会所でやった。

【木曾課長】町長の名前は。

【阿部主事】モチキである。「持つ」に「木」で。

【木曾課長】ふれあい公社の職員の名前は。

【阿部主事】ナカヤマさんだったと記憶している。

【木曾課長】その他にいるか。

【阿部主事】来ていたが、その席には同席していなかった。事務局長のオウラさんという方であったと思う。「大きい」に「浦」で。

【木曾課長】その場では区長が即答することはないと思うのだが。

【阿部主事】私の記憶では「いいことなので協力する」と区長から話があった。その後、町長が区長室に行っていると思う。

【宮川係長】それはいつ頃か。

【阿部主事】それから1年後ぐらいだったと思う。2010年ぐらいだったと思う。直接お会いしていないので詳しい記憶がない。

【木曾課長】特許の件について、14年以前からお付き合いがあるところは特許料をとらないという話があったかと思う。その後、当時の所長や係長に確認したが、要綱設置制定時点でせせらぎに着手していたものについては免除するという決めにしたとのことだった。それは1件程度だったとのこと。それ以降については、見学に来たとかお付き合いがあるからということで免除するというにはしていないとのことだった。

【阿部主事】それは違うと思う。私の認識では、平成14年以前のものについて、今後ホテルの水槽、せせらぎを作るということを前提に来ているというところには、特許の適用をしないと確認をしている。

【木曾課長】阿部主事が25年度に作成した資料では、20年以降指導している団体が複数あるのに、19年より特許料をとっていないとある。それらは特許料をとらないといけないのでは。

【阿部主事】それらは全て14年度以前からお付き合いがある。14年度以降については、リーマンショックの影響で、新規でやるというところがなかった。自分も期待していたので残念である。

【木曾課長】それでも、個人や学校法人や宗教法人や医療法人など様々なところがある。中には大きな企業もある。それらが14年以前からお付き合いがあったということだが、ただ見学したからお付き合いがあったとは言い難いのでは。免除は、その時点で着手したものであるかと思うが。

【阿部主事】着手しているかどうかは、自分の認識ではない。その当時、ホテル施設に『指導を仰いでいるところ』という認識である。『着手』という認識はない。

【木曾課長】阿部主事の認識と区の方向性に齟齬があったということだと思うが、この件については

しっかり相談すべきだったと思う。なぜ相談しなかった。

【阿部主事】 相談はしていた。

【木曾課長】 かなり膨大にあるが、全て相談していたのか。

【阿部主事】 そうである。連絡事項はしっかりしていた。私が勝手に動くということはあつてはならない。

【木曾課長】 例えば、どこに行っていたか。

【阿部主事】 金沢とか。金沢の個人宅で行ったが、そこは坂本区長の後輩の家である。ムラシマ設計というところであるが、坂本区長から話があった。

【宮川係長】 それはいつごろか。

【阿部主事】 平成20年か21年頃だったと思う。坂本区長の日大時代の後輩だったと聞いている。特許料の話は個人宅だからいいよという話になった。

【木曾課長】 個人宅でも特許はとるべきなのでは。

【阿部主事】 そういうことがあったので、休暇でお手伝いに行った。職免とか出張ということでは行っていない。勤務を要しない日に行くか、勤務を要する日でも休暇をとって行った。

【木曾課長】 それについては相談したか。

【阿部主事】 した。そしたら仕方ないねということだった。

【木曾課長】 誰にしたのか。

【阿部主事】 エコポリの川平係長にした。そこでは「内緒でするしかないね。区長からの頼みなんだから」という話になった。私としては良いことをしているのに、少しおかしいという思いだった。

【木曾課長】 その他にも色々あると思うが。

【阿部主事】 木曾課長は特許料について疑問に思っている部分もあると思うが、私は相手方に（平成）14年前から指導しているから特許料をとらないと説明している。これについては私を信じて頂かないと困る。

【木曾課長】 14年以前からお付き合いしていたとは、どういふことで判断しているのか。

【阿部主事】 名刺とか。大体は覚えていけるからわかる。

【木曾課長】 線引きとしては阿部主事の記憶なのか。

【阿部主事】 そうである。あとは相手の記憶である。

【木曾課長】 それで特許を免除するのか。

【阿部主事】 それしかない。『14年以前から交流のあるところは』という前提があるから。

【木曾課長】 これだけ歴代課長等が変わると、特許の考え方も変わると思うが。

【阿部主事】 それについては、その時代の管理職が指示なり命令なりをしなかった。良かれと思ってやっていることが仇となっていることが悲しい。

【木曾課長】 23年ごろ、エコポリの封筒で阿部主事がどちらかに送ったものが返戻された。中身を確認したら…。

【阿部主事】 それはマルハナバチである。箱代とか実費相当分はもらうべきだと、ボランティアの方から話があったので。

【木曾課長】 誰に出したのか。

【阿部主事】 農家である。私は出していない。ボランティアの団体が出した。

【木曾課長】 ボランティアの団体とは。

【阿部主事】 イノリ企画である。

【木曾課長】 イノリ企画はボランティアの団体であるのか。

【阿部主事】 ボランティア団体というか、蜂のお世話をしている方を指している。

【木曾課長】 それをエコポリの封筒で請求書として出したのか。

【阿部主事】 その時は「封筒ありませんか」と話があったので、私がそこにある封筒使っていいと言った。その代わり、切手とかは買うように言った。

【木曾課長】 中身は知っていたのか。

【阿部主事】 中身は知らなかった。

【木曾課長】 請求の内容は。

【阿部主事】 箱である。これはボランティアが買ったものなのだから、あげると言う訳にはいかないの

で。

【木曾課長】 いくらぐらいの箱か。

【阿部主事】 請求書そのものを見ていないのでわからないが、確か15,000円から20,000円ぐらいだったと思う。

【木曾課長】 請求書というのはイノリ企画から出したものか。

【阿部主事】 そうである。後にも先にもそれだけだと思う。

【木曾課長】 農家とはどこの農家か。

【阿部主事】 神奈川県横須賀市にある中島農園だったと思う。

【木曾課長】 当時の所長は納得したのか。

【阿部主事】 佐藤所長には「処罰を受けるというのであれば、お任せする」と言った。

【宮川係長】 なぜ処罰を受けるという話になったのか。

【阿部主事】 所長から「こんなことやったらまずいだろ」と言われたので、私が懐に入れていた訳ではないが、それがいけないというのであれば処罰を受けると言った。

【木曾課長】 ボランティアが施設を運営するのに公の財産を使うのはよくないのでは。

【阿部主事】 それはない。ボランティアは自分のところで封筒なり使うものを持ち込んでいた。

【木曾課長】 では、イノリ企画の封筒があったのか。

【阿部主事】 なかった。作っているかもしれないが、私は見していない。

【木曾課長】 中身がわからないものについて、いきなりエコポリに呼ばれたのに何故その説明が出来たのか。

【阿部主事】 向こうが封筒を開けていたからだ。

【木曾課長】 イノリ企画がそのような請求書を出すことがあったのか。

【阿部主事】 なかった。私の知る限りでは1回だけだ。能登町を除いては。

【木曾課長】 能登町とやっていたのは知っているのか。

【阿部主事】 それは契約ということで行っていたので、むこうもそうでないと困ると言っていた。最低限の飼育費をもらわないと困るので。

【木曾課長】 能登町とのやり取りは阿部主事が行っていたのか。

【阿部主事】 やらない。というより、やれない。

【木曾課長】 なんでやれないのか。

【阿部主事】 金銭的なことが発生しているので、私が販売している訳ではないので。

【木曾課長】 せせらぎの石があると思うが、年間通して購入していたと思う。この石はどれぐらい大きいのか。

【阿部主事】 大きさは大中小と様々。

【木曾課長】 どれぐらいの頻度で交換しないといけないのか。

【阿部主事】 年一度程度である。石だからいらぬという意見もあるが、せせらぎは流れが非常に強いので、表面が削れる。そこで、微生物の発生等が抑制されるので、交換が必要。交換した石は敷き石として再利用していた。

【木曾課長】 年間どれぐらいになるのか。

【阿部主事】 500袋ぐらいである。土を含めて。土も再利用していた。

【木曾課長】 それは特許のせせらぎのポイントなのか。

【阿部主事】 そうである。これを確立したのは平成8年である。

【木曾課長】 ホテル施設が今の場所になったのはいつか。

【阿部主事】平成4年7月からである。対外的には平成5年4月である。
【木曾課長】せせらぎが完成したのはいつか。
【阿部主事】平成5年からである。
【木曾課長】その当時から、石もそういうやりかたでやっていたのか。
【阿部主事】当時はもつと土を使っていた。3倍ぐらい使っていた。効率性を求めていった結果、今のスタイルとなった。
【木曾課長】流れが強いのなら、幼虫も流れてしまうのでは。
【阿部主事】石の裏にいますので流れない。
【木曾課長】石はそんなに削れてしまうのか。
【阿部主事】削れてしまう。石の表面のコーティング部分に細かい凹凸があるが、それが削れてしまふ。特に、那智石は成分がよく、非常に多く使う。ただし、これを公にはしてはいなかった。
【宮川係長】石はどのタイミングで取り換えるのか。
【阿部主事】夜間公開が始まる少し前に1度変える。その後は10月に代える。
【宮川係長】それは流れを止めてやるのか。
【阿部主事】そうである。1つ1つ手作業でやるので、根気のいる作業である。
【宮川係長】そこで代えた時、石の下にはホタルはいないのか。
【阿部主事】いる。そのため、1つ1つ丁寧にやる必要がある。
【宮川係長】それは自然界では起こらない現象ではないのか。
【阿部主事】自然界でも起こる。自然界では流れの中でゆっくり回転し、向きが変わっていく。
【宮川係長】では、何故ホタル施設ではそれが起こらないのか。
【阿部主事】自然界では台風や大雨等で水量が変わるが、ホタル施設では一定の水量でやらないといけないので、お手伝いが必要。
【宮川係長】石が回転すればいいということであれば、交換する必要がないのでは。
【阿部主事】それは悩んだ部分。ただし、ホタル施設では夜間公開を成功させないといけないので、それであれば石を交換した方がいいという判断になった。
【宮川係長】それであれば、なぜ石の交換をホタル公開の直前にやるのか。
【阿部主事】水の中には幼虫がないからである。
【宮川係長】石を毎年交換していれば、かなりの石の量になると思うが、それは全て敷き石に使っていたのか。
【阿部主事】そうである。施設の裏等に使っていた。思ったほど多くない量だと思う。
【宮川係長】10年以上そうしていたら、かなりの量になると思うが。
【阿部主事】施設を見て頂ければ納得頂けると思う。
【木曾課長】この石はどこでも売っているのか。
【阿部主事】ホームセンター等では売っていない。海外から輸入しないとけない石である。扱っているところは、日本玉石というところがあるが、ここの石が一番良かった。
【木曾課長】日本玉石と契約しているのか。
【阿部主事】武蔵野種苗園というところと契約している。
【木曾課長】そこでしか売っていないのか。
【阿部主事】日本中探せばどこかにはあると思うが、それだけの労力をかけられない。板橋区立温室植物園には様々な石があったため、研究し、この石がいいというところまでたどり着いた。
【木曾課長】先日、飯田主事に話を聞いた時「トラップに幼虫が30匹程度いるところを確認した」と言っていたが、何故確認させたのか。阿部主事はそこで勤務をしないうえ、その結果を阿部主事はわからないのではないのか。
【阿部主事】飯田主事には今までのやり方を教えたのだ。トラップの中には特殊な餌を入れていた。

【木曾課長】特殊な餌とは。誰が作ったのか。
【阿部主事】私である。
【木曾課長】飯田主事はその餌を見ているのか。
【阿部主事】見ていると思う。その餌は20年かけて作り上げたものだ。
【木曾課長】その餌の作り方は教えてくれないのか。
【阿部主事】こういうことを教えるために職員が欲しかった。委託業者には教えるわけにはいかない。
【木曾課長】中に餌だけということは飯田主事が確認しているのか。
【阿部主事】ちゃんと写真をとっている。飯田主事も三浦係長も確認をしていると思う。
【木曾課長】中身は確認していないと言っていたのだが。
【阿部主事】それは再度確認して頂きたい。
【木曾課長】みんなに誤解を招かないように、もう一度餌を使ってやって頂くことは出来ないか。
【阿部主事】別に構わない。ハツ等の8種類をミンチにして作るものである。
【木曾課長】施設にはないのか。
【阿部主事】ない。
【木曾課長】その餌は特許ではないのか。
【阿部主事】特許ではない。
【木曾課長】ただし、それは大事なものののでは。
【阿部主事】そうである。だから誰にも教えていない。
【木曾課長】教えてもらわないと困るのでは。
【阿部主事】それは、自分たちで餌となるカワニナを育てて頂ければいいと思う。
【木曾課長】以前にも、そのトラップを使って数を把握したということがあったのか。
【阿部主事】そうである。
【木曾課長】業者の方は見ていたのか。
【阿部主事】見せない。私の技術である。ただし、公表しないという訳ではない。区の人以外には見せたくないだけだ。
【木曾課長】トラップを使っている事はみんな知っているのか。
【阿部主事】トラップをやりますよとは言わないが、みんな知っていると思う。
【宮川係長】蜂について、能登町に蜂を提供するという契約書を交わされているが、女王蜂が4,500円、最低350匹買ってしまうという内容かと思う。先日の説明では350匹という数は最低限必要な数と伺ったが、誰が決めているのか。
【阿部主事】蜂をやっている方々がやっている。効率がいいのがこの数であった。
【宮川係長】この金額は誰が決めた。
【阿部主事】蜂をやられている方々が決めたことで、私が決めた訳ではない。私が立ち入ることができない部分である。ホタル施設ではホタルのための蜂なので、販売目的の蜂なら別の場所ですべて欲しいと言った結果、成増で育てることになった。
【宮川係長】いつのことか。
【阿部主事】平成23年5月から借りていた。
【宮川係長】いつまで。
【阿部主事】半年間の契約だった。ただし、延長したと思う。
【宮川係長】最終的にはいつまで借りていたか。
【阿部主事】私はそこに行ったことがないのでわからない。行く意味もない。
【宮川係長】先日、平成23年度で終わったと話があったが、それはその施設が終わったということか。
【阿部主事】能登町との契約が終わったため、蜂を供給する必要性がなくなり、やる意味がないということである。そこで、そこでは飼育をせず、ホタル施設で飼育することとした。

【宮川係長】 4,500円×350匹だと150万円程度になると思うが、何に使われていたのか。
【阿部主事】 一番多いのが花粉である。女王蜂を育てるためには精度の高い花粉が必要。一キロ数万もする。
【宮川係長】 何の花粉でないといけないとかあるのか。
【阿部主事】 それはある。レンゲとかお茶とか色々ある。それらをミックスして作る。ホテル施設でも花粉を使っていたことがあったが、それでは対応出来ないで、新たに買う必要が出てきた。あとは砂糖やガムシロップや上白糖を買っていた。ホテル施設の中ではちゃんと縦割りで業務を行っていた。決して曖昧にやることはしていなかった。
【宮川係長】 そうすると、費用のほとんどは花粉を購入するためのものだったのか。
【阿部主事】 花粉と糖液と箱である。蜂を入れる木箱だが、これはよく壊れる。特殊な素材なので、原価が1つ3,000円程度と高い。
【宮川係長】 毎月150万かかるのか。
【阿部主事】 そうである。小箱だけで500個必要だし、大箱は200個程度必要だと思う。その金額でも厳しいと思う。
【宮川係長】 箱一ついくらするのか。
【阿部主事】 大箱で3,800円と聞いている。ただし、多く注文すると安くなるとは聞いていた。
【木曾課長】 話が前後して申し訳ないが、武蔵野種苗園と取引をすることになったのは阿部主事が決めたのか。
【阿部主事】 私が温室植物園にいた頃から、そこに入っていた。赤塚の植物園もそこだと思う。私が選んだ訳ではない。
【木曾課長】 ボランティアの綾部さんは武蔵野種苗園と関係あるのか。
【阿部主事】 武蔵野種苗園の연구원として2年いたと聞いている。武蔵野種苗園は能登町と女王蜂のやり取りをしていたのだが、いきなり手を引いたらしい。話を聞いたら取引価格は8,000円から10,000円だったとのことである。それは横暴だということで、原材料の金額と交通費等の金額程度でやりましようと思え能登町と話した。その結果の金額である。
【木曾課長】 能登町との契約における金額は阿部主事が交渉したのか。
【阿部主事】 交渉は常に能登町の課長、係長、職員とふれあい公社の職員と4名程度来ていた。私も参加していた。ただし、金額については私が決めるといことは出来ない。
【木曾課長】 では、誰が決めたのか。
【阿部主事】 蜂を育てている綾部さんと駒野さんが決めた。その額は最低ラインで定めた。そこで販売するのであればホテル施設で育てられては困るということで、別のところで育てることにした。
【豊田主査】 成増に行ったことはないと話していたが、具体的な場所を教えてください。
【阿部主事】 (地図を見ながら) 1階が八百屋である。
【豊田主査】 成増1-14か15であるか。
【阿部主事】 そうである。マンションの1階である。そこを借りていた。中はどうなっているのかはわからない。飼育に携わっていないので。
【豊田主査】 石は武蔵野種苗園と随意契約で行っていると思うが、一般的に品名を指定して入札で行うべきだと思う。武蔵野種苗園でないといけない理由は何か。
【阿部主事】 武蔵野種苗園でないといけない理由はない。ただし、土を使うのに熟処理が必要だが、他の業者ではそれをやってくれなかった。そうでないと雑菌が残ってしまう。
【豊田主査】 それを仕入れに入れてやればよかったのではないか。
【阿部主事】 他では出来ないかと聞いた。また、私がここでないといけないといことは一度も言っていない。
【豊田主査】 蜂の話になるが、能登町に最低350匹とあるが、350匹以上売られている月もあると

思う。それによって150万円を超えたら部分はどうにしていたのか。
【阿部主事】 多く売られていたかどうかというのは疑問である。何故かという、ホテル施設で女王蜂が多く出過ぎたときは、私から能登町に無償で送っていた。能登町も欲しいと言っていたので。数回あったと思う。そこでは費用発生ということではなかった。
そのことは大迫部長に話をしたが「余剰ならあげていいのでは」と話を頂いた。
【豊田主査】 綾部さんは武蔵野種苗園から出向という形だったのか。
【阿部主事】 基本は朝霞にいた。そこで終わったらホテル施設の手伝いをしてきていた。
【豊田主査】 武蔵野種苗園が蜂から手を引いて、退職された後も綾部さんはお手伝いをしていただと思うが、生活はどのようにしていたのか。
【阿部主事】 生活はプライバシーになるが、実家で面倒をみてもらっていると言っていた。
【豊田主査】 上司から話を聞いた時、大学と連携していたという話を聞いたが、どの大学か、どの学部か、また何のためだったのか教えてほしい。
【阿部主事】 今、依頼があるのが山形大学の理学部、その他は、富山大学、筑波大学、日本大学。内容はどのようにして受粉を集めるのかというものなど。東京大学では空体力学という分野で研究に使われていたと聞いている。
【豊田主査】 それはいつ頃からやりとりをしているのか。また、今もやりとりをしているのか。
【阿部主事】 今も山形大学と富山大学とはやりとりをしている。4~5年前ぐらいからやっている。マルハナバチを安定的にやっているというのは今までもなかった。今もない。
【豊田主査】 今回の件で、蜂のやりとりが出来なくなると思うが、今後どのようにしていくのか。
【阿部主事】 お任せしている。綾部さんも駒野さんも自宅に持って帰っていると思う。
【豊田主査】 何人が持って帰ったのか。
【阿部主事】 2名である。
【豊田主査】 自宅で飼うのは大変なのでは。
【阿部主事】 私は楽しいと思う。
【豊田主査】 飼うにはスペースが必要なのではないか。
【阿部主事】 小規模であれば、そこまでスペースはいらない。
【豊田主査】 能登町以外で蜂を販売しているという話は聞いているか。
【阿部主事】 企業ではやっている。アリスタ、東海物産、アグリセクト等。
【木曾課長】 今回の一件を受けて、クロマルハナバチをインターネットで調べたが、その中で中央区の日本橋に關イセキという会社がホテル施設から蜂を仕入れているという記載があったが。
【阿部主事】 それについては厳重に注意した。勝手に名前を使うなどということ。
【木曾課長】 誰に注意したのか。
【阿部主事】 關イセキのサイトウさんという方が顧問でいるのだが、ホテル施設に来て箱を作りたいということだったので、提供した。それが結果的にそのような文章になった。
【木曾課長】 いつか。
【阿部主事】 一昨年から去年の事。すぐに削除するように求めたのだが、仕入れるという表現だと誤解を招く。
【木曾課長】 關イセキにその掲載があったと誰が教えてくれたのか。
【阿部主事】 ネットでたまたま見ている。それで削除するように求めた。
【木曾課長】 他にそのような事例はあるのか。
【阿部主事】 關イセキぐらいだけだと思う。
【豊田主査】 今ネットで調べたが、現在も掲載されているが。
【阿部主事】 (記事を見て) この記事である。これはまずいと思う。
【木曾課長】 關イセキとは、蜂についてどのような関わりを持っていたのか。

【阿部主事】レクチャーしていた。武蔵野芸術大学や日本大学の方と一緒にホテル施設にきていた。

【木曾課長】それはいつ頃か。

【阿部主事】一昨年のお春とか夏の暮だと思ふ。

【木曾課長】他に阿部主事が調べていて、ホテル施設が掲載されているところはあったか。

【阿部主事】私が調べた中では、そこだけだった。

【木曾課長】山崎部長や井上課長から『板橋から買ったことがある。イノリ一企画についても、区は便宜を図ったことがある』という話を聞いた』と言っていたが。

【阿部主事】それについてはわからない。板橋区や私が利益を得たということはない。むしろ名誉を傷付けられたと思っている。迷惑以外何物でもない。

【木曾課長】エムエス環境育成財団というところから蜂を仕入れているという話を聞いたが。

【阿部主事】仕入れているのではない。提供しているだけだ。

【木曾課長】相手方は仕入れていると言っているが。

【阿部主事】エムエスには余剰の蜂を送っている。その部分にかかる材料代を送ってくれている。

【木曾課長】材料代とは。

【阿部主事】花粉とか、箱とか、餌とかを送ってくれている。

【宮川係長】余剰の蜂には材料はいらないのか。

【阿部主事】例えば20匹余剰があった場合、これは今いらなくなったら、それに対して飼育費がかかる。その部分に係る飼育の経費は負担するよう言っていた。

【木曾課長】余剰とは、能登町と350匹の契約をしていると思うが、その余剰か。

【阿部主事】たくさん匹数がいた時があった。その時の余剰だ。

【木曾課長】それをエムエスに送ったとして、経費はお金で送ってくるのか。

【阿部主事】お金でなく現物を送ってくる。お金ということは外して頂きたい。むしろ私が出す方が多い。ものが足りなければ仕方がないので出していた。

【木曾課長】イノリ一企画がやっているのではなく、阿部主事がやっているのか。

【阿部主事】今のはエムエスとの話。能登町とはイノリ一企画がやらないといけな。

【木曾課長】エムエスとは阿部主事が担当していたのか。

【阿部主事】向こうから依頼文が来ていたので。

【木曾課長】依頼文はどこにあるのか。

【阿部主事】区長宛でだったと思う。マツザカ理事長から板橋区長宛てに来ていた。私から単独で動いたというケースはない。

【宮川係長】それはいつごろか。

【阿部主事】4年ぐらい前だと思う。もし疑わしいなら、ちゃんと調べる。

【豊田主査】再度確認をさせていただきたい。調査の結果、推定23匹であったと思う。阿部主事からは「とんでもなく少ない。それは神聖な場所に土足で踏み込んだから流されたのでは。今は5000匹いると思う。」と発言されているが、その差は調査の方法が悪かったからなのか。

【阿部主事】その会社がホテルに関して何の実績があったのか、論文を何本書いているのか、学位は何をもっているのか、全くないところで作るといっておかしい。どんな専門家に聞いても同じ答えが返ってくると思う。

【豊田主査】部長、課長とは会いたくないと言っていたが。

【阿部主事】会うぐらいならここから飛び降りる。腹を切る。

【豊田主査】わかった。それでは、調査の際に幼虫の死骸が1匹も見つからなかったと聞いているが。

【阿部主事】下水に捨てていたので、見つかるはずがない。循環ピットにかかっても、ベッペと流した

ので、たわしか何かでこすったので。

【豊田主査】阿部主事もそこにはいたのか。

【阿部主事】私は極力そこにはいない。見たくなかったので。

【豊田主査】部長はずっとそこにいたが、それについては見えなかったと言っているが。

【阿部主事】彼が見れるはずがない。あれだけゴミがたまっていて、3から5ミリの幼虫をみつけれられるというのであれば、その目は電子顕微鏡かという感じである。

【豊田主査】阿部主事も網を蹴って目詰まりをなくしたと聞いたが。

【阿部主事】蹴った訳ではない。網ですくっていただけだ。網に溢れるという経験がない。経験がないものをどうすればいいのか。飼育者としてこれだけの屈辱はない。ど素人の会社にやられて報告書を出されて、これらは名誉棄損以外の何物でもない。私は感情的にならないようにしているが、これほど大きな過ちをしていたらそうなる。

【豊田主査】カワニナは…

【阿部主事】カワニナの稚貝がすごかったと思う。無数にあると思う。無限にあると思う。網にかかると流されたと思う。

【豊田主査】カワニナはどれぐらいいると思うか。

【阿部主事】報告書では20ミリ以上をカワニナと定義しているが、では1ミリはカワニナではないのか。それなら人間の赤ちゃんは人間じゃないと言っているのと同じである。私の感覚では数万匹はいれると思う。ただ、今年乗り切れるかどうかである。

【豊田主査】今、カワニナはどれぐらいの大きさか。

【阿部主事】1から3ミリである。私が部課長に言いたいのが、調べているのが東京ゲンジホテル研究所のフルカワ氏と聞いているが、彼はやくざである。ホテルを売っている人間である。そこに聞いてどうするのと思う。日本ホテルの会、NPOホテルの会、全国ホテル研究会でも経験したことのないことをやっている。

板橋区でしかないものである。それを板橋に聞かないで他に聞いて、これは弱いじめめ以外何物でもない。私の人格を無視している。私は悲しい。やくざに聞いてどうする。損害賠償される可能性もある。

過去に、NPOホテルの会と東京ゲンジホテル研究所が、早稲田大学に写真を貸したところ、後から何十万という請求をした。早稲田大学はそれを払ったと聞いているが、そういうやり方をするとどこに依頼するとは。

【木曾課長】東京ゲンジホテル研究所の誰であるか。

【阿部主事】フルカワ ヨシヒト という人物である。

【木曾課長】その人に相談している事を部長から聞いたのか。

【阿部主事】周りから聞いた。ネットで書かれていたので。私がバカであるという旨の話を仲間内に話している。

【木曾課長】漢字はどう書くのか。

【阿部主事】『古川義仁』だと思ふ。3人のホテル屋がいる。神戸の『ニシヤマカズユキ』、中部にいる、椿山荘とお付き合ひのある『チバユタカ』、東京は『古川義仁』である。この人はNPOホテルの会の理事でもある。

【木曾課長】阿部主事の記事を見ていたところ、鎌倉の八幡宮ともお付き合ひがあるとみたが、そのホテルはどこか。

【阿部主事】八幡宮のである。そこにいる人と地域住民が育てている。

【木曾課長】阿部主事が持ち込んだのではないか。私はそういう印象を受けたが。ホテルをカプセルにに入れて、子どもたちに渡して喜んだとか。このホテルはどこか。

【阿部主事】八幡宮のである。

【木曾課長】それは飼育者としてどう思うのか。

【阿部主事】自分のところで育てたものなので。
【豊田主査】 話は戻るが、トラップはいつ仕掛けて、いつ確認をしたか覚えているか。
【阿部主事】 2月7日だと思う。最後の日だったと思う。
【豊田主査】 仕掛けたのはいつか。
【阿部主事】 2日前なので、2月4日から5日である。
【豊田主査】 数について、最終的な確認はされていないと思うが。
【阿部主事】 13匹か18匹であると思う。ちゃんとは確認していないので曖昧である。飯田主事には数え終えたら、せせらぎに戻してほしいと依頼した。飯田主事から飼育室にある幼虫の数について質問を受けているが、最初の数は1000匹から3000匹程度なので、この数の概ね10分の1程度だと思う。そのように答える予定。
【豊田主査】 今回の調査では、屋外のピオトープからは一匹も見つかっていないと聞いているが。
【阿部主事】 それは絶対嘘である。1月上旬に灯りを確認している。絶対あり得ない。素人が調査するとこのようなことになる。ホタルは独特な調査方法を行わないといけない。
【豊田主査】 阿部主事の業務日誌には「ホタルを48本の水槽で4月ぐらいまで飼育している」となっているが、上司への説明は「孵化して間もなく、せせらぎにいられている」とされている。この不一致は。
【阿部主事】 水槽については日々変化する。幼虫の状態を見て、水槽を増やしたりしている。日々変化するので一定ではない。43本というのは、幼虫を入れるためだけの水槽のことである。
【豊田主査】 上司は孵化したら、せせらぎに入れていっていると思っっているが、それは違うのか。
【阿部主事】 そうである。状態を見ながら判断しないといけない。
【豊田主査】 上司はそんなに水槽があったかと言っていたが。
【阿部主事】 あった。水槽はプラケースのこと。硝子のケースではない。割れても安全である。その水槽はよく壊れる。見学者が足をぶつけたらして、割れたらすぐ交換する。
【豊田主査】 大きさは。
【阿部主事】 大中小とある。
【豊田主査】 カワニナの大型水槽はいくつぐらいあるのか。
【阿部主事】 屋台でよく金魚が入っているような水槽のことである。その他に180センチほどのカワニナ育成水槽が2本、研究用水槽は3本、予備水槽が4本ある。震災のときに1本割れたので、今は3本である。
【豊田主査】 千葉のヒロセさんを知っているか。
【阿部主事】 その人は土を作る際に、一緒になって考えてくれた人。一般の方。
【豊田主査】 それはいつのことか。
【阿部主事】 10年以上前のことだと思う。
【宮川係長】 ヒロセ何という人か。
【阿部主事】 『ヒロセ ミツル』という人が社長で、『ヒロセ ヤスハル』という人が今の社長だったか。全然会っていないのでわからない。
【豊田主査】 どれぐらい会っていないのか。
【阿部主事】 1年以上会っていない。
【豊田主査】 ホタルの施設に来ることはあったのか。
【阿部主事】 前までは営業に来ていた。ただ、お父さんが4~5年前に北海道の帯広に移ってしまったので、お付き合いは最近していない。区としてお世話になった方だ。
【豊田主査】 むし企画の菅野さんの給料を知っているか。
【阿部主事】 その月によって変わっていたのかどうか。詳しくはわからない。
【豊田主査】 毎月の委託料がどう使われていたのかはわからないか。

【阿部主事】 こちらが聞くというのは、履行はちゃんとされていたので。
【豊田主査】 日々会う中で、プライベートの話などもされていると思うが、例えば「今月は給料が多かった」というような話をしたことはないか。
【阿部主事】 聞いていたのは「今月は給料が遅いよね」ということである。それに対して、飯田主事に確認したことはある。
【木曾課長】 小船さんが病気になった時はどうだったか。
【阿部主事】 まいった。小船さんが痴呆になり、裁判所で銀行を止める決定が下され、それで慌てた。
【豊田主査】 それは誰から何月ぐらい、どれぐらい払われていないという話があったのか。
【阿部主事】 高橋係長からだ。
【豊田主査】 むし企画からではないのか。
【阿部主事】 むし企画からは聞いていない。高橋係長から、「銀行が凍結したため、お金が戻って来た。まずい」と話があり、急遽代表を代えることとなった。そこで高久さんしかいないという話になった。
高久さんは法人を経営していたので、そこにしたいと言ったが、「役所とむし企画の契約だから、そこにお金を振り込むことはできないので、むし企画のままで、代表を高久さんにしてくれ」とあったので、そのようにした。その時の事務は環境課でやっていた。私はタッチしていない。
【豊田主査】 阿部主事がむし企画から聞いて、環境課に言った訳ではないのか。
【阿部主事】 「何月分の請求書を出したが支払われていないので聞いてほしい」と話はあった。
【木曾課長】 上司から聞いたのだが、再任用の山下さんが仕事しないため施設でも掃除したらと注意したところ「施設はボランティアさんが掃除しているからダメ」と言われたと聞いたが。
【阿部主事】 それはあった。
【木曾課長】 その人が「仕事は伝票整理をしている」と言っていたが、何の伝票であったのか。
【阿部主事】 伝票はない。あるとしたらマニュアルの伝票である。仕事は、交換便とかチラシを整理整頓していたが、それを体裁よくした表現の伝票なのではないか。
【木曾課長】 ルシオラについて、小山町にルシオラを紹介したのは阿部主事だと思うが、小山町以外にルシオラを紹介したところはあるか。
【阿部主事】 ホタルの再生をやっている時は、ルシオラがろ材等の手配をする。そのために、平成15年か何か、この会社を茨城大学に作ってもらったのが、石塚輝雄さんの意思だった。ある特定の企業だけというのはおかしいので、ちゃんと公平にしなければならぬということで、茨城大学のベンチャー企業として立ち上げてもらった。
【木曾課長】 ルシオラ紹介をするというのは、どのようなケースか。
【阿部主事】 そこでしか専用のろ材を扱っていない。ホタルの水路作りたいたいと具体的に言った時に、どこから材料を買えばいいのか等の相談を受けた時は「ルシオラです」と紹介した。
【木曾課長】 134箇所にもホタルの指導をしたとあるが、134箇所全てで紹介したのか。
【阿部主事】 全てではない。地元で材料が入れば特に紹介しないが、材料が入らないということであればルシオラを紹介していた。
【木曾課長】 先ほどの話では、那智石がポイントということだったが。
【阿部主事】 それについては、地元の石材屋に聞くように話をしていた。材料については現地のものを使うというのがいい。
【木曾課長】 ホタル施設に花が届いていると聞いたが、花とはなにか。
【阿部主事】 苔である。ハイゴケである。特に夜間公開中は多く使用する。ホタルの産卵用の苔である。
【木曾課長】 そうすると夜間公開の前には、その品が届くのか。

【阿部主事】 そうである。
【木曾課長】 どれぐらいの大きさか。
【阿部主事】 そこまで大きくない。平べったい苔である。空気を入れて送ってくる。
【木曾課長】 どれぐらい送ってくるのか。
【阿部主事】 10箱ぐらいである。それぐらいないと産卵が出来ない。ハイゴケというのは育てるのが難しい。ホタルが発生している時はハイゴケが欠かせない。
【木曾課長】 どこから仕入れるのか。
【阿部主事】 むし企画が仕入れている。
【木曾課長】 区の消耗品で買わないのか。
【阿部主事】 委託費の中でやっている。委託費の中に人件費と消耗品費が入っている。その消耗品として購入している。
【木曾課長】 石等は区で購入していると思う。ただし、仕様書では『水質維持のための消耗品』となっているが、それは水質維持ではないのでは。
【阿部主事】 仕様の中に入るはずである。その他、施設が必要とするものと書いてある。必ずエサとかその下に書いてあると思う。
【木曾課長】 ハイゴケは幼虫の飼育に必要なものでしょう。
【阿部主事】 卵なので、当然ここに入ると思いますけど。
【豊田主査】 (仕様書を見せる)これが仕様書だが。
【阿部主事】 もっと書かれているのがある。
【豊田主査】 これは実際の契約書の写し全てであるが。
【阿部主事】 (水質維持のための消耗品)この中に含まれているので、コケだけを欲しい方というのはそんなでもないでしょうということ。
【木曾課長】 ハイゴケはどこから仕入れているのか。
【阿部主事】 ハイゴケは水辺に近くないとない。高久さんが田んぼを借りているところにハイゴケがある。
【木曾課長】 高久さんは干葉でしたか。
【阿部主事】 そうです。
【木曾課長】 干葉から送られてくるのか。
【阿部主事】 そうです。
【木曾課長】 ハイゴケはホタルの産卵以外で、一般的に何に使うものか。
【阿部主事】 一般的には盆栽等で使っている。苔玉とか。
【木曾課長】 結構高いものなのか。
【阿部主事】 高いが高くないかというのは、ちょっとわからない。業務に支障のない範囲でお願いしますとお願いしているの。
【木曾課長】 本来は『水質維持のため』なので、仕様の内容と違うと思うが。
【阿部主事】 水質は基本的に産卵が終われば、水際に苔を置きますので。
【木曾課長】 産卵にしか使わないんですね。
【阿部主事】 はい。仕様には『その他必要とするもの』という文言があるはずだと思うが、それは必要なものである。
【木曾課長】 ハイゴケは10箱ぐらいということでもいいか。
【阿部主事】 10箱ぐらいだと思う。これは水質に関係するもので、水辺にずっと置いてある。ハイゴケが水と土を結ぶものなので必要なものである。
【木曾課長】 そうすると、常に必要なのでは。
【阿部主事】 いや、その期間でないと手に入らない。
【豊田主査】 足立の施設に行ったことがあるか。

【阿部主事】 ない。向こうからは来た事がある。
【豊田主査】 そこに入っている業者が今回調査した会社である。阿部主事がめっちゃくちゃなことをしていると言っているような業者でもホタルは飼育できるのか。
【阿部主事】 飼育はできないと聞いた。5年前に足立の課長がきて、「ホタルを貸してくれないか」と相談に来た。それで、神戸のニシヤマさんという、ヤクザまがいの人から買ったらしいが3匹しか入っていなかったらしい。
私からは「自分のところで夜間公開があるので貸せないし、ホタルは移動すると発光パターンも変わるので出来ない」と回答した。その結果ホタルの公開を中止したと思う。
【豊田主査】 ホタルを飼う上で難しいところは、どのようなところか。
【阿部主事】 感覚が必要。第六感的なもの。水を舐めて分かなければいけない。これを教えるのに3~5年はかかる。
【豊田主査】 水が一番重要なのか。
【阿部主事】 水と土である。水と土の関係性をわかっていないといけない。また、施設は閉鎖空間なので、自然界とは違う。頭の常識を変える必要がある。
【豊田主査】 特許使用で115箇所ということがあったが、全ての場所でホタルは元気なのか。
【阿部主事】 元気だと思う。クレームは入っていない。ただし、区長の後輩のムラシマさんだけは、ホタルの出が悪いとか、幼虫をくれとか、カワニナをくれとかの話はあった。私も寺町というところに3回程度行った。区から旅費は出ていない。全て自腹でやった。見た結果、ハイゴケ等の状態は良かった。本人は出ないと言うが、周りの人は「いたよ」と言っていた。
【豊田主査】 今もホタルが発生しているというのは、どのように確認されているのか。
【阿部主事】 向こうに連絡を入れて、確認している。
【豊田主査】 阿部主事から連絡を入れているのか。
【阿部主事】 向こうから来ることが多い。
【豊田主査】 ホタルをやめているところもあるのか。
【阿部主事】 ある。水槽を置くスペースがなくなった等で。
【豊田主査】 小山町について、14年以前から来ていたとのことだが、調べた結果、今の町長は平成23年に小山町に来た人で、それ以前は議員であったため、直接町政には携わっていないと思う。14年以前から話をしていたのは誰か。
【阿部主事】 役場の方で、今は退職した方から相談があった。
【豊田主査】 今の町長とは違うということか。
【阿部主事】 そうである。ただし、小山町であることには違いない。
【豊田主査】 「当時の山崎所長から時間外が払えないと言われた」という話があったが、山崎部長が過去の記録等を確認したら、「時間外について、『飼育監視待機』だと無給になるが、『飼育業務』として約2時間の支給、『夜間測定準備、測定時間』として約1時間の支給、『早期飼育』として約1時間の支給と、分けて時間外については支給していた」ということが確認された。支給しないという事実はないのでは。
【阿部主事】 そうである。ただし、私が話したのは、全ての時間外が出ていないということである。
【木曾課長】 長時間ありがとうございました。申し訳ないのですが、資料(前回聴取記録)の確認をお願いしたい。

<1回目聴取記録を確認>

【阿部主事】 10ページ目に「ルシオラが小山町に提出している」とあるが、これについて確認したところ「小山町がフォーマットを作ってルシオラに送った」ということであった。
【宮川係長】 それは、どこに確認したのか。

【阿部主事】 ルシオラに確認している。小山町には確認していないが、

【豊田主査】 ルシオラの誰に確認したのか。

【阿部主事】 ルシオラの深田さんから確認した。

【豊田主査】 いつ頃、確認したのか。

【阿部主事】 前回確認した2月13日の直後である。詳しい日には覚えていない。

【木曾課長】 先日見せて頂いた資料で、「無償供給する。ただし、出なかったら連絡してほしい、また供給する」とあるが、どこから供給するのか。

【阿部主事】 供給は、板橋に静岡の水槽を別で管理している。そこで世代交代したものを送るという意味である。

【木曾課長】 高島平にあるのか。

【阿部主事】 そうである。施設の中にある。今預かっているのが、山口県豊田町、徳島県池田町である。

【豊田主査】 今日の内容も確認して頂く。また連絡をさせて頂く。沖縄に行く時には教えてもらいたい。

【阿部主事】 アメリカのタフツ大学に呼ばれている。研究の件で一緒に論文をする。

【木曾課長】 アメリカのどこにあるのか。

【阿部主事】 カルフォルニアである。カルフォルニア大学から旅費がでる。京都大学と連携してやっていて、4年前に1度論文を出している。そこから一歩踏み込んだ形を考えている。

本調査は事情聴取の要旨である。

以上、その内容に相違ありません。

平成 25 年 3 月 13 日

資源環境部環境課管理係 阿部 直男

総務部人専課長 木曾 博
総務部人専課人専係長(書記) 宮川 修一
総務部人専課人専係主査(書記) 豊田 岳彦